

年月日

19
08
23ペー
ジ
33

NO.

国土交通省の調査によると、2017年の日本人の国内クルーズ人口は前年比26・4%の増加で過去最多を記録した。船旅の種類も、海からしか行けない世界自然遺産の小笠原諸島など南の島を回るもの、熊野の花火大会を船上から観賞するもの、豪華客船での国内クルーズを体験するものなど豊富だ。

私が注目しているのは、17年秋から運航開始のせとうちくのせとうちクルーズの「ガンツウ」だ。航路は全て瀬戸内海で、季節に合わせて2泊から3泊まで選べる。海上に浮かぶ宿といつたしつらえで、船内のデザインには木材がふんだんに使われている。印象的な船体には大きな切り妻屋根がかかり、船首にはオープンデッキがあり、腰かけながら瀬戸内海の風景をゆったりと鑑賞することができる。地元の家具を用いるな

△デザインのチカラ△

④



17年秋から運航開始のせとうちく
ルーズの「ガンツウ」

ど、インテリアにこだわった4種類の客室は、全19室ともオーシャンビューノーのテラス付きスイートルームだ。美しい形状のラウンジチエアを作製したマルニ木工は海外でも人気の高いブランドだ。

深澤直人氏デザインのHIROSHIMA（ヒロシマ）といういすが有名で、海外の商業施設、オ

フィスや空港でも使われており、米アップルの新社屋にも数千脚納入したそうだ。

海外から注目を集めたのはHIROSHIMAという名前の力も大きかったのではないだろう。ガンツウに話を戻そ

船旅に瀬戸内の粹結集

元の魚や食材で構成されおり、地酒も楽しめる。宿泊費は最低40万円で飲食代などもオールイン

クルーズ。新しい旅の在り方に魅了されたリピーターも多いと聞く。地

元の粹を集めてトータル

にデザインされた船旅

は、観光産業の粹にどう

まらず、地元のブランド

イングにも威力を発揮し

ている。

（見月伸一・三井デザ

インテック・デザインマ

ネジメント部長）